

銅・アルミ

市況見通し

3月

銅

1月の伸銅品生産

(速報値)は、前年同

月比で1・0%増の5

万1160ト。3カ月ぶりに前年同月比でプラスに転じた。

1月の銅電線出荷量(推定値)は同2・3%減の4万6900トで、うち国内が同2・7%減、輸出が同29・9%増だった。

銅輸出は、電気銅が同17・3%減の4万8052ト、銅スクラップが同35・9%減の2万5993ト(未入電)。

銅輸入は、電気銅が同83・4%減の99ト、銅スクラップが同61・5%増の1万3244トだった。

銅スクラップ景況予想

2月の電気銅建値は、月初の144万円が月央には149万円へ上昇したが、下旬には再び144万円まで下落した。流通(一次問屋)の2月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄だった。長期在庫分は相場の急落により、売らず買えずのこう着状態となった。メーカーは材料難で、値段が合わず買えない状態となっている。

3月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8500~9500ドル	弱い
電気銅建値	125~151万円	弱い
為替(1ドル)	145~155円 (1カ月間TTM)	円高

LME銅・為替予想

今月は「米・トランプ大統領の関税政策」と「3月のFOMC(連邦公開市場委員会)」に左右される。

「米・トランプ大統領の関税政策」では、3月4日午前0時1分をもって、メキシコ、カナダへ25%、中国10%の追加関税が賦課されたと予測する。

「米・トランプ大統領の関税政策」では、3月4日午前0時1分をもって、メキシコ、カナダへ25%、中国10%の追加関税が賦課されたと予測する。

アルミ

1月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同5・2%増の12万3739トとなり、前年同月比でプラスに反転した。1月の生産量は板類が同5・4%増の7万5468ト、押出類が同5・0%増の4万8267ト。1月のアルミ二次合金・同合金地金生産は

同0・2%増の5万4479ト。輸入はアルミ新地金309ト。アルミ二次合金・同合金地金出荷は同1・2%増の5万3950ト。輸出はアルミ新地金20・9%減の269ト、アルミ二次合金が同7・5%減の731ト、アルミスクラップが同21・5%減の2万9494ト、アルミ缶が同8・3%増の5

3月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ 現物後場買い	2500~2700ドル (現物後場買い)	横ばい
スクラップ	据え置き~マイナス5円 (前月最終価格より)	弱い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2598ドルから2655ドル台と上昇局面だったが、円高で相殺される形となり価格は下落した。このため流通(一次問屋)では、材料難から一定の購入姿勢を見せるのではと見ている。

メーカー在庫は、自動車生産の減少やトランプ関税による先行き不透明感から、積極的には買いたくないことが背景にある。

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート



銅輸入は、電気銅が同83・4%減の99ト、銅スクラップが同61・5%増の1万3244トだった。

2月の電気銅建値は、月初の144万円が月央には149万円へ上昇したが、下旬には再び144万円まで下落した。流通(一次問屋)の2月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄だった。長期在庫分は相場の急落により、売らず買えずのこう着状態となった。メーカーは材料難で、値段が合わず買えない状態となっている。